

道風記念館 館蔵品展

半切はんせつという紙面

令和6年

10月19日〔土〕—12月15日〔日〕

休館日 11月曜日（祝休日の場合は翌平日）

開館時間 11午前9時—午後4時半

観覧料 1一般100円、高校・大学生50円、中学生以下無料

展示品解説

11月10日〔日〕・11月30日〔土〕

各日 午前10時半—11時、午後2時—2時半

学芸員が初心者向けに展示品の解説をします。

事前予約は不要です。お気軽にお越しください。

展示品の作者

永坂石埭	近藤雪竹	比田井天来	石橋犀水	藤田蒼碩	宮本竹逕	坪井正庵	榎倉香邨	加藤梅香	黒野清宇	樽本樹邨	橋詰桃邨	田中徹夫
北方心泉	渡辺沙鷗	林楽園	田中塊堂	続木湖山	森田安次	萩原冬珉	長谷川柳城	土屋陽山	龜山雪峰	武内幽華	安達柏亭	長谷川清城



傳燈録云禪者五外道禪凡夫禪小乘禪大乘禪
最上乘禪一品吾唯字外道禪

庚子十月

七十二支集園



春日井市道風記念館

〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町5丁目9番地3
tel 0568-82-6110
<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html>



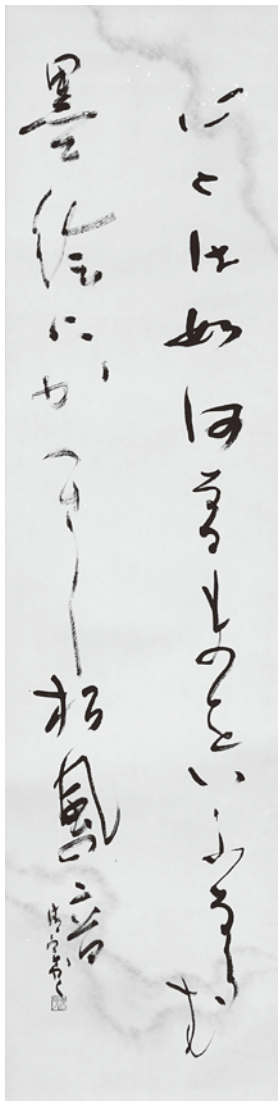
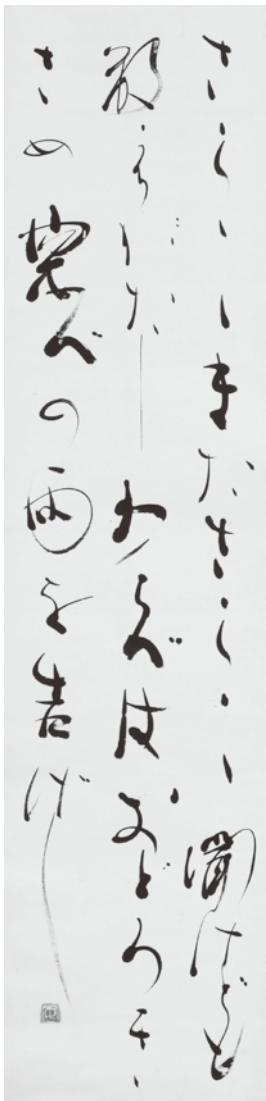
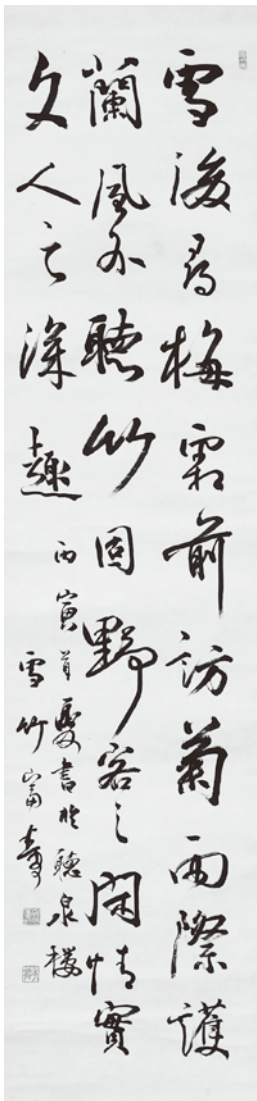
半切という紙面

えられると、そのうちの小画仙の大きさを全紙、全紙を縦に半分に切った大きさを半切と呼ぶようになりました。半切はおよそ一三五×三五センチになります。半切の作品を掛け軸にしたものを条幅といいますが、かつては多くの家庭で床の

書画をかくために中国で作られた紙を画仙紙といい、さまざまな大きさのものがあります。日本に画仙紙が伝

間には条幅が、欄間には半切横の額が飾られていて、それらの作品は生活のなかに浸透していました。洋間が中心になり、床の間も無い家が多くなった現在、半切の書画作品が飾られる機会は以前よりずいぶん少なくなりました。また、大きな展覧会場では、より大きな作品が求められるようになってきました。しかし、半切が書画作品の基本であることは現在も変わりません。

今回は館藏品のなかから半切作品のみを選んでみました。定められた形の紙の中で、書家たちがどのようにして作品をまとめる工夫をしたのか、美しい書を表現するためにいかに心血を注いだのかを注意深く鑑賞していただければ幸いです。



- 1 永坂石埭 (1845～1924)
- 2 近藤雪竹 (1863～1928)
- 3 森野安次 (1912～1959)
- 4 黒田清宇 (1930～2017)
- 5 藤田蒼碩 (1901～1981)
- 6 榎倉香邨 (1923～2022)



◆ JR名古屋駅からJR中央本線勝川駅下車、タクシー10分 徒歩30分
 ◆ 名一環外回りは松河戸ICから3分、内回りは小幡ICから5分
 ◆ JR中央本線大曾根駅からゆとりとラインで川村駅下車 徒歩10分
 ◆ JR中央本線勝川駅または春日井駅からゆとりとラインで川村駅下車 徒歩10分
 ◆ JR勝川駅発車時刻 9時40分・12時00分・14時15分
 ◆ JR春日井駅南口発車時刻 8時49分(平日) 休日日運休・11時18分・13時33分・15時53分



春日井市道風記念館

〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町5丁目9番地3
tel 0568-82-6110
<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofuu/index.html>